

## はじめに

- 平成23年3月 九州新幹線全線開業
- 平成24年4月 熊本市政令指定都市移行

○熊本駅から市内各地を結ぶ二次交通アクセス充実の必要性



【熊本駅～熊本学園大学の交通手段】

- 中心市街地を經由しない2つの環状バス路線の存在
- 運賃100円均一の廉価な直通バスの運行開始 (H23.10)



## 本プロジェクトの概要

【平成23年10月～11月】

- MMキットの配布
- 第一回アンケート調査の実施  
:個人属性、日常活動の実態、公共交通利用条件など

【平成23年12月～平成24年1月】

- 第二回アンケート調査の実施  
:個人属性、行動の変化、利用促進策への意向など

- モビリティマネジメントの効果検証
- 利用促進策の検証

## 配布したMMキット

○くまもとバス活用ハンドブック



※その他、バス利用促進を図るために、(直通バス)路線図、時刻表、乗り場案内、乗り換え情報を提供

○かしこいクルマの使い方

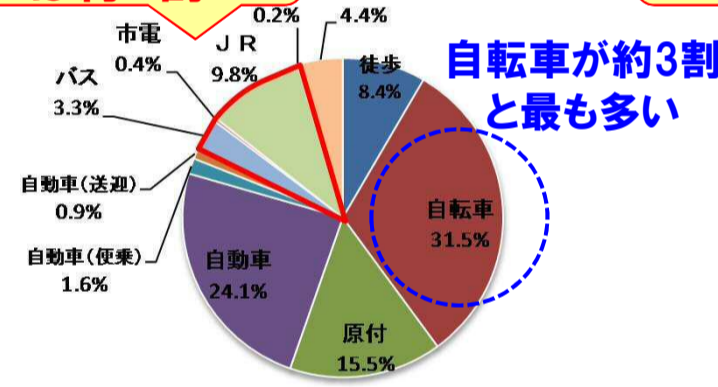


※その他、クルマと健康のはなし、クルマと事故のはなし、バスのはなしを提供し、「バス利用を動機付け」

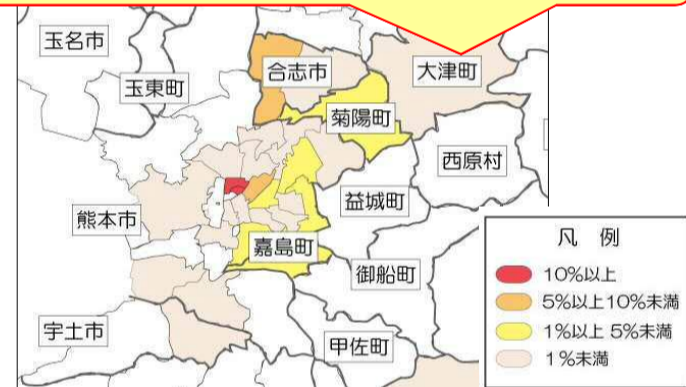
## 第一回アンケート調査結果

○熊本学園大学の学生・教職員の行動特性

公共交通利用者は約1割



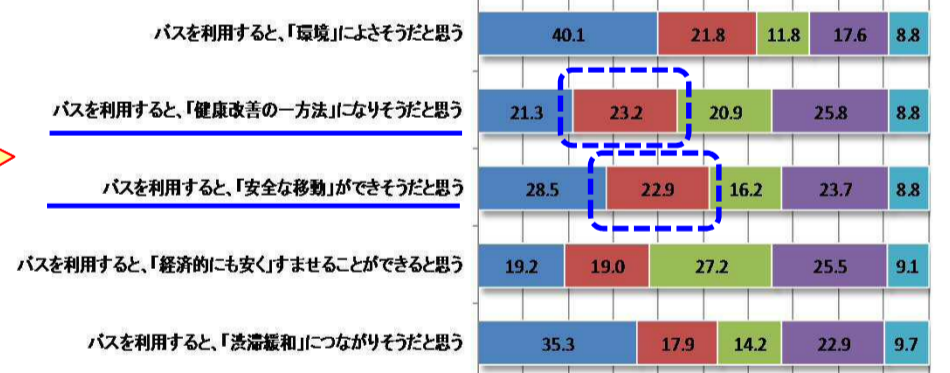
中心市街地以外にも、郊外の大型商業施設や大学グラウンドなど、多様な活動



▲通勤通学時の代表交通手段(N=569)

▲学校終了後の目的地の分布

○MMキットの配布に伴う意識の変化

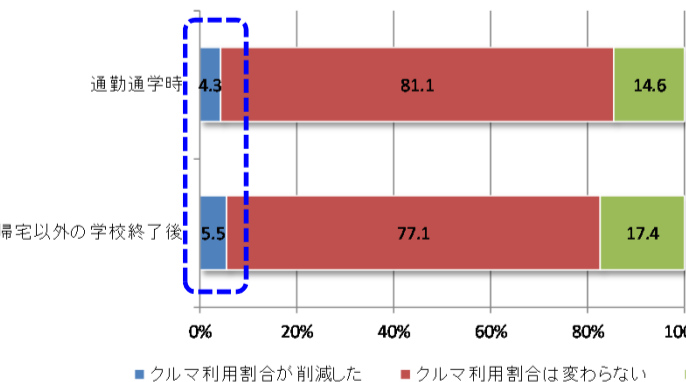


『健康』、『安全性』に対する意識の変化は2割以上と大きい

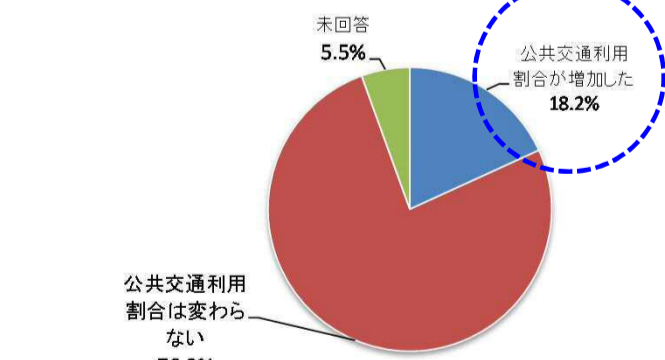
N=569 ■ 以前から思っていた ■ 読んで思うようになった ■ 読んだけれど思わなかった ■ 分からない ■ 無回答

## モビリティマネジメントの効果検証

クルマ利用の削減は約5%



買い物や飲食・娯楽など主に市街地での行動目的が増加



▲平日のクルマ利用の削減状況(N=253) ▲休日の公共交通利用状況(N=253)

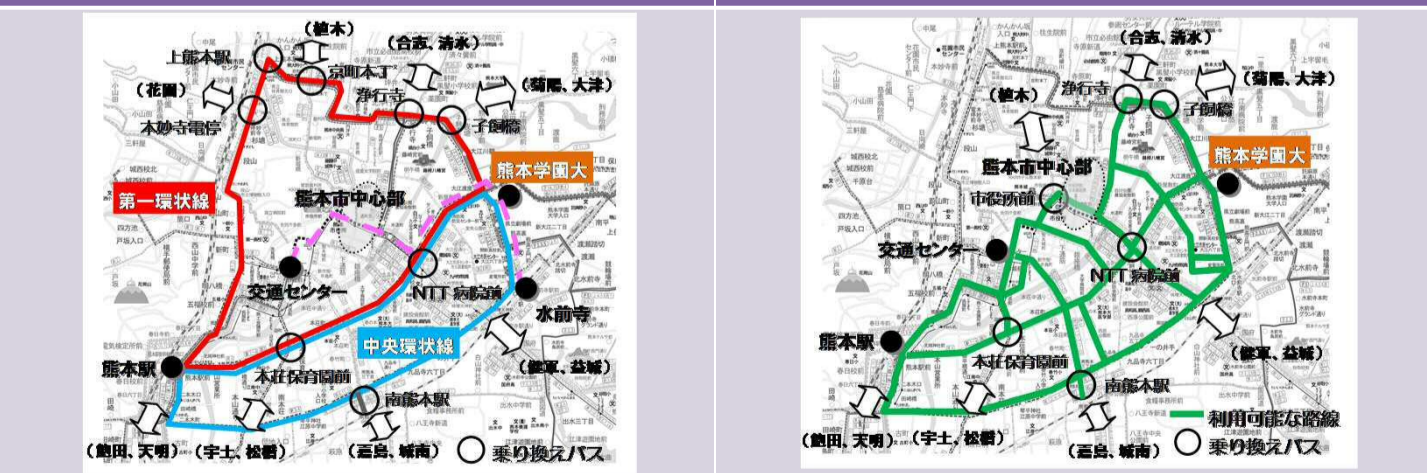
- 情報冊子に対して、約2割が『役に立った』
- 今後のバスの利用意向は、既存バス利用者が約6割、自動車利用者が約5割

◆MM実施により、ある一定の意識の醸成や行動変容は確認  
◆今後は、新入生等を対象とした情報冊子の配布や、コミュニケーションの充実、継続的な情報提供が必要

## 利用促進策の検証

環状線及び大江城西線フリーパス

中心市街地内フリーパス



※導入にあたっては、バス事業者の減収分が収入を下回るなどの問題が...

- サービス継続に対する協力意向は約2割 (『積極的に購入する』との回答者の約5～6割は元々購入意向なし)

◆利用促進策は、新規バス需要の喚起や渋滞等の多方面へ効果  
◆採算性の問題は、バストリガー制度の導入に伴いクリア  
◆契約方式などの詳細な制度設計や魅力向上の工夫が必要